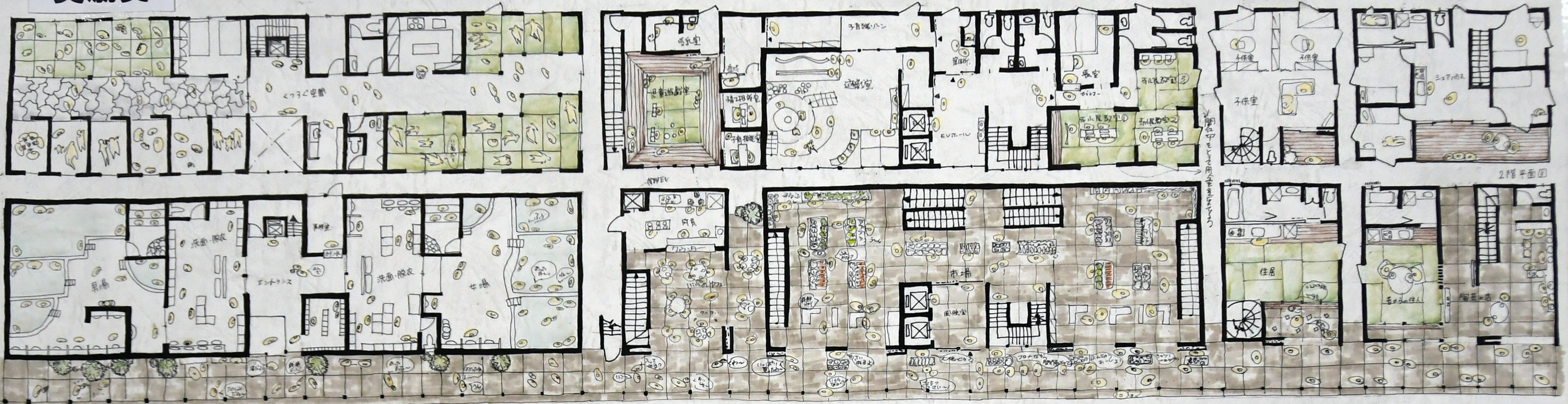
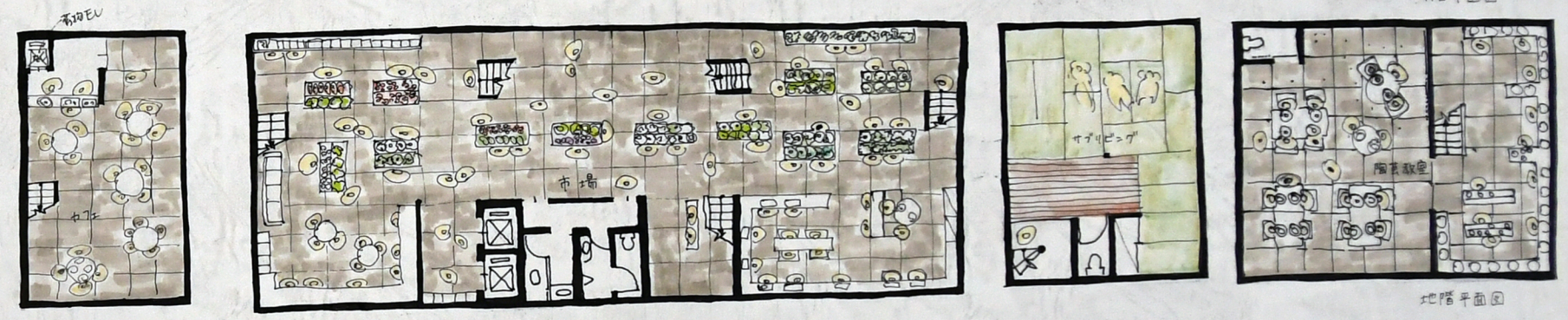


奨励賞

人々と街をむすぶ雁木

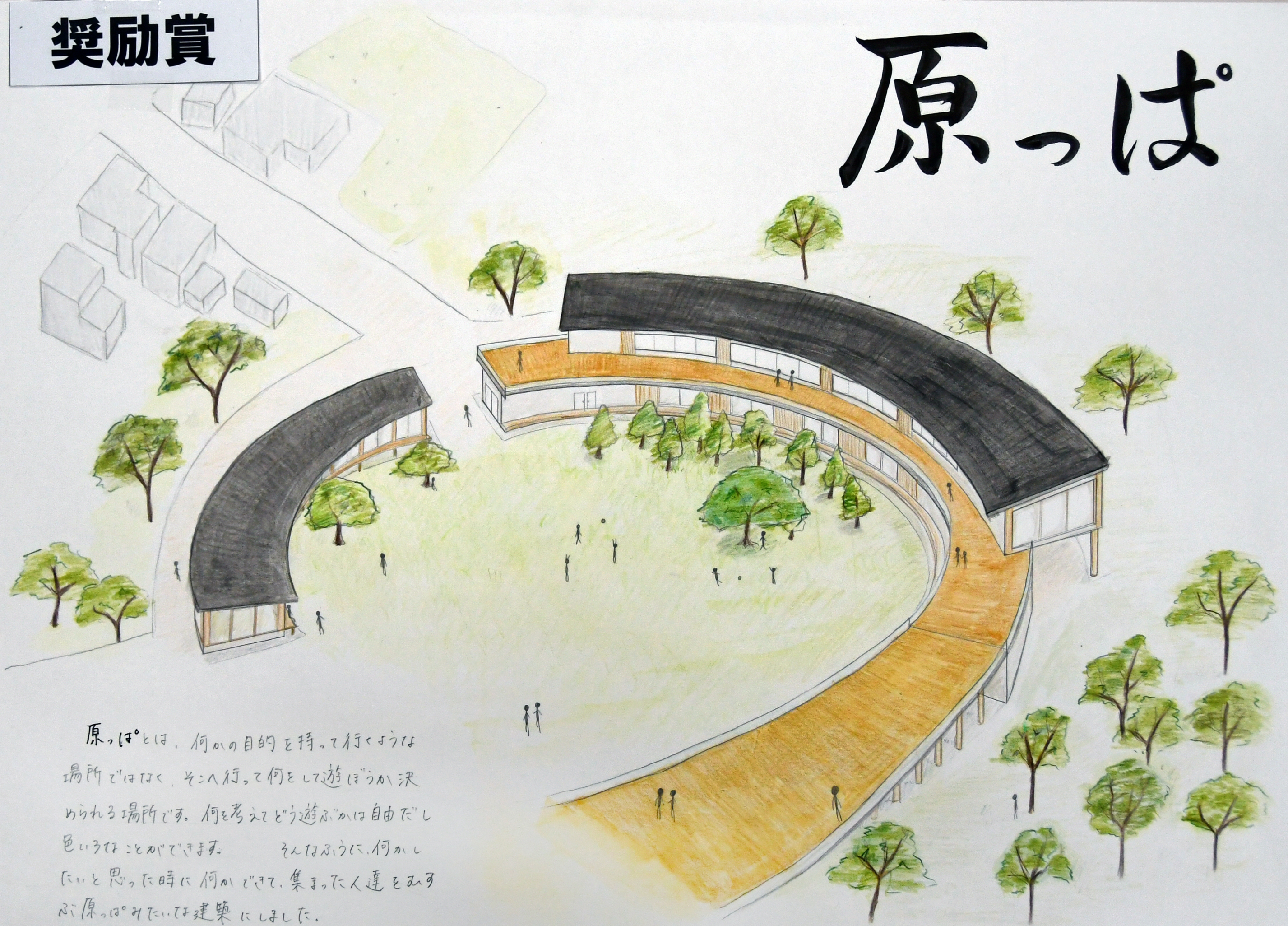


かつて富国特有の暮らしの知恵として民地の中に通路機能を有した「雁木通り」が形成されていた。近年では、商店の廃業や空き家、駐車場の設置により、底下空間の連続性が失われたり、景観が壊れたりしている。この「雁木」に注目し、過去の面影や人々の賑わいを現代へつぎの世代へと引き継ぐための地域活性化の拠点となる提案をする。今回の拠点となる計画地は、新潟県産原産物の流通の街並みをモデルとした。私は、この地に新潟へ調査をした。ここには、古い町並が今も多く残っており、歴史的に人々の生活の中で刻まれてきた。しかし、この町はいくつか問題点がある。昔ながらの雁木はあるが連続性は少ない。高齢者が多く若い世代と子供が少ないことや昔の住み方が不便である。また、駐車場になるなど、住まいの空洞化現象が起きている。人と人、人と街の関係性が希薄になりつつある。そこで、近所の子供たちや、引越した人々を受け入れ、みんなで協力し合いながら、リノベーションを考えた。かつてにぎやかであったこの町を元気にするため、底下空間が市民の交流の場でもあった空間を連続させた。まず、建物中央部分の1階と地下空間をむすぶ市場を設けた。市場では、日々忙しいお母さんが主役で、買い物していると近所の人と話で盛り上がり、また楽しい憩いの場でもある。その時間のせいで、子供を迎えに行く時間に合わせて、また1日が過ぎてゆく。買い物をしては子供を迎えに行く。私は、その時に出会う人と人とのコミュニケーションが発生していると考えられるので、市場の西側に隣接させてカフェを設けた。また、子育ての支援も市場の上階に配置して、子育て支援センターや遊戯室、寺小屋教室と、安心して子育て支援ができる空間を設けた。建物西側では、市民のみんなが利用できるように、1階に銭湯、2階をくつろぐ場として配置した。建物東側では、若い家族や、昔からの住人で余った空間をシェアして、陶芸教室を開くなど地域との交流を目指した。産原産物の流通は古くから底下空間が多く残されている。ここに市場とカフェや銭湯、住まい、シェアハウスなど軒を並べてみんなの笑顔でいっぱいにする。底下空間の利用は、構造形式を建物の外部と内部の関係性からも利用し、夏の日差しや雨を通り、降雪期間には無雪空間として歩行者を保護する。その空間を利用してそれぞれの用途へとむすびアプローチをする。夏は、特に扉をあけっぱなしにして、人と人、底下空間をむすぶ。足を止める人々、知人との挨拶や情報交換の場や子供の遊べる場にもなる。底下空間を通行する人々は、無意識のうちに生活の一部となる。そしていつしかにぎやかな笑顔のある町になることを期待して、街の人々たちが次の世代へと結ぶことができたらいいと思う。そんな提案をします。



奨励賞

原っぱ



原っぱとは、何かの目的を持って行くような場所ではなく、そこへ行って何をして遊ぶのか決められる場所です。何を考えどう遊ぶかは自由な色いろなことできます。そんなふうに、何かしたいと思った時に何かできて、集まった人達をみる。原っぱみたいな建築にしました。

原っぱ



原っぱとは、何の目的を持って行ける場所ではなく、そこへ行くと何と遊ぼうか決める場所です。何をどう遊ぶかは自由だし色んな遊びができます。そんなふうに何かしたいと思った時に何かをして、集まった人達と遊ぶ原っぱを建築しました。

1. コミュニティ

コミュニティの一員として人々との関係を広げていくことで、良い面も増えるが、窮屈さや自由を失うという側面もあります。下の表は、コミュニティで「生まれる人との接点やサービスに当たる人が」ヒロジテの2つの良さを表したもので、このように、YesとNoの人々がいることを理解しなければなりません。この表は「この村で暮らすと經由し集合生活は成熟していく」と書かれています。人々を「むすぶ」ためにはコミュニティの場をつくらなければ、そこから人々がどう使うかによって生か

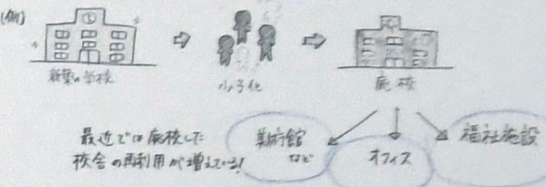
<p>ランニングやヨガの練習場がほしいです。今あるのはコミュニティメンバーに専用スペースがあります。</p> <p>NO</p> <p>YES</p>	<p>ある日の集まりの人数が140名を超えました。集まりはコミュニティメンバーに専用スペースがあります。</p> <p>NO</p> <p>YES</p>
<p>毎月あなたの家の電気代が1000円です。コミュニティ（350世帯）の平均値より15%です。</p> <p>NO</p> <p>YES</p>	<p>田舎一人暮らしの生活が不便です。コミュニティで生活したいです。</p> <p>NO</p> <p>YES</p>
<p>地域の商店の閉鎖が心配です。コミュニティで活動したいです。</p> <p>NO</p> <p>YES</p>	<p>不要なコミュニティ内に侵入しています。コミュニティで活動したいです。</p> <p>NO</p> <p>YES</p>

される場をつくること「又切た」と感じました。

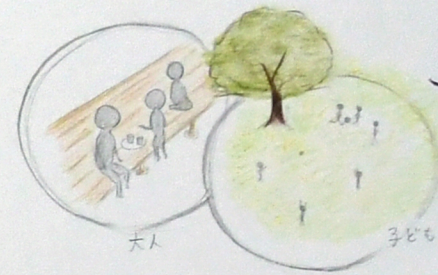
原研哉・HOUSE VISION 実行委員会 (2013)
HOUSE VISION 2013 TOKYO EXHIBITION
平凡社 pp.20-21

2. 長く使われる

インターネットの普及や少子高齢化、その他の理由で「何人かの生活スタイルは変化してきています。生活スタイルが変化していく中で、建造物の需要がなくなっていくこともあると思います。当時必要があった建物の多くは今は使われておらず、閉鎖されています。このようなことがないように、長く使われることを考える必要があると思います。



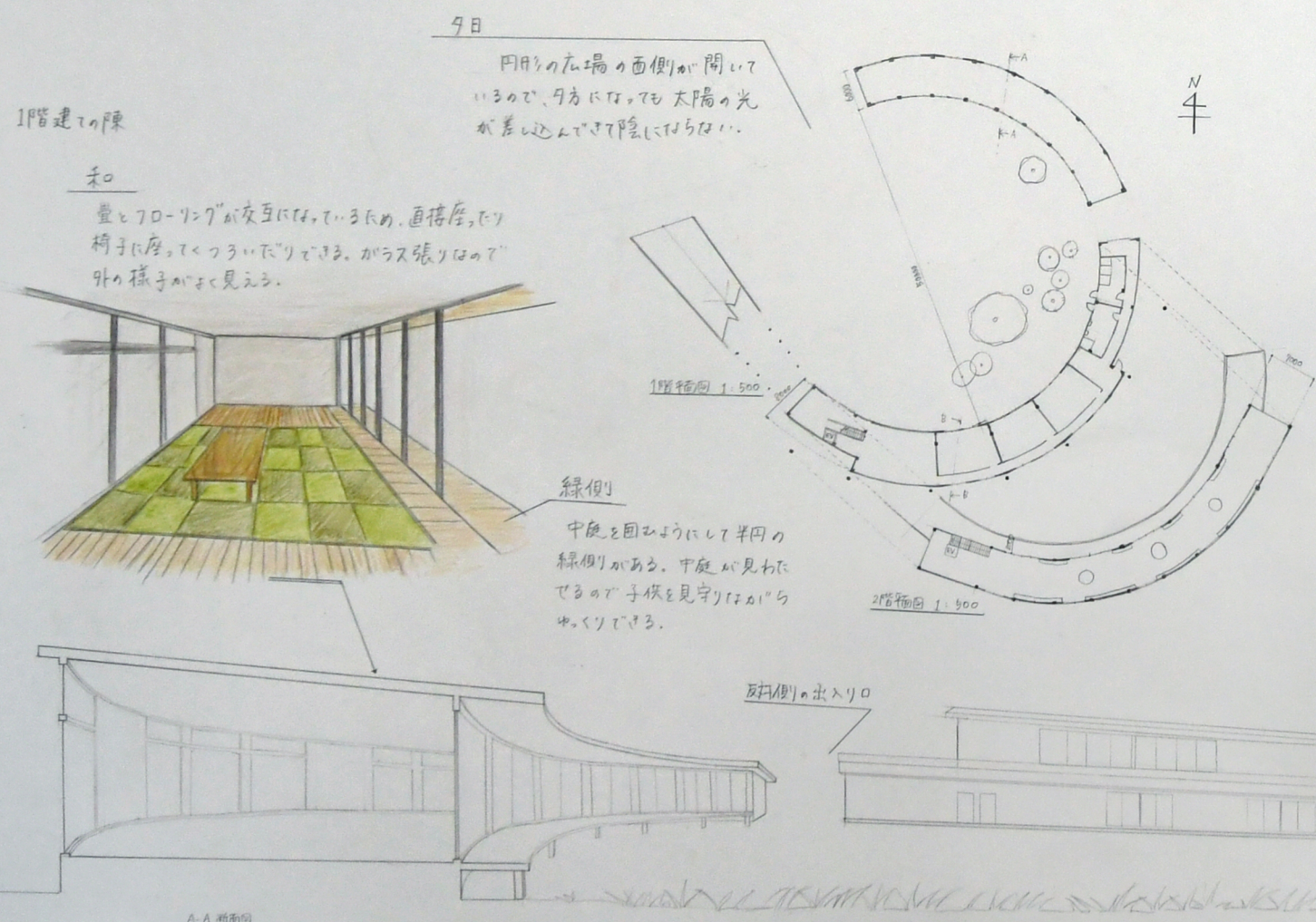
2階と3階の部屋は目的を定めておらず、何となく何となくの部屋に何となくその時代のニーズに合わせて利用される。



3. 幅広い人達が利用する

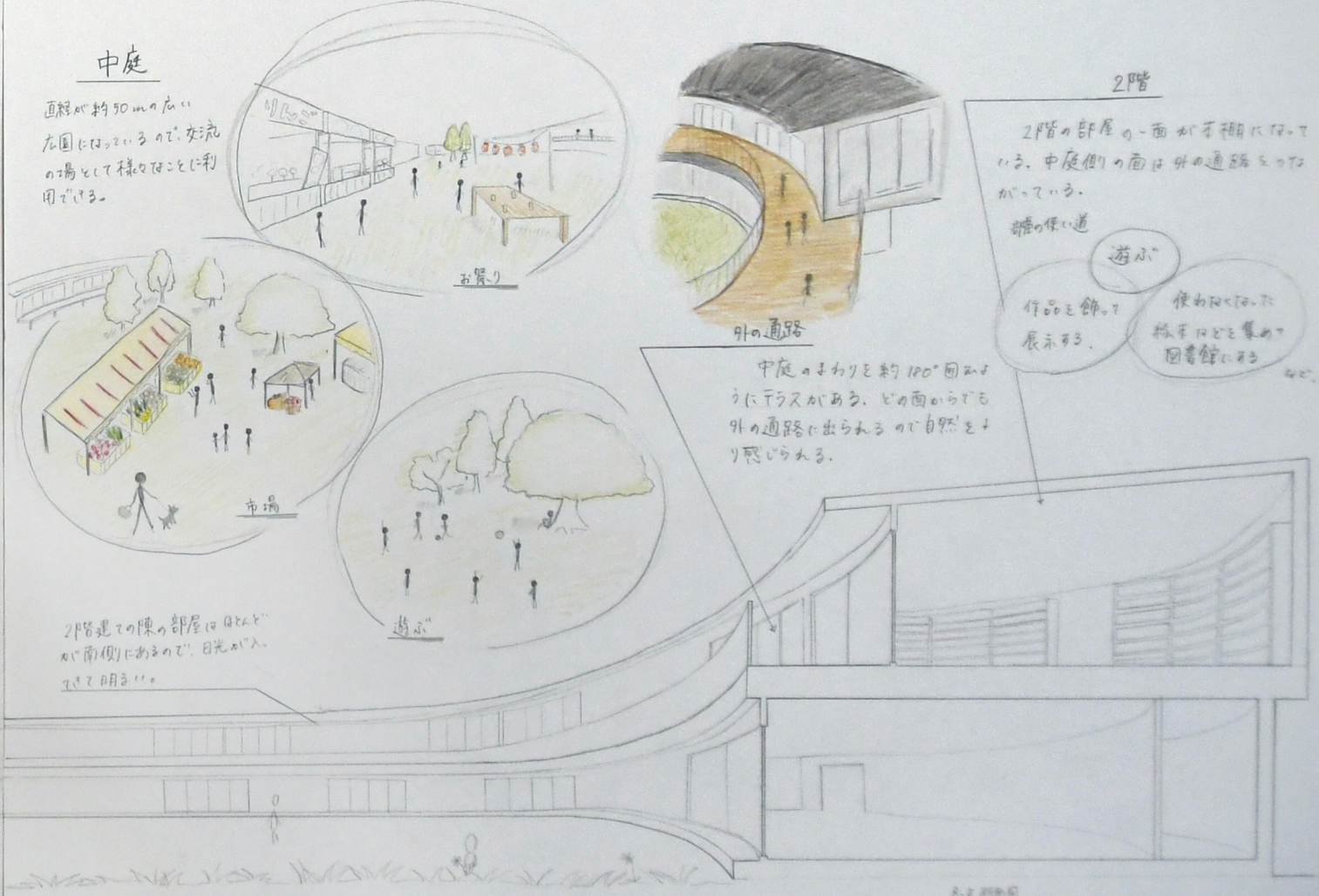
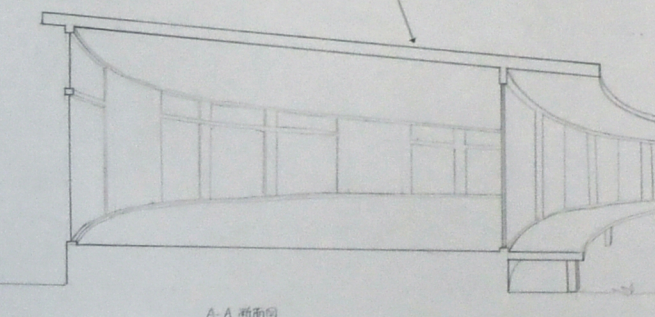
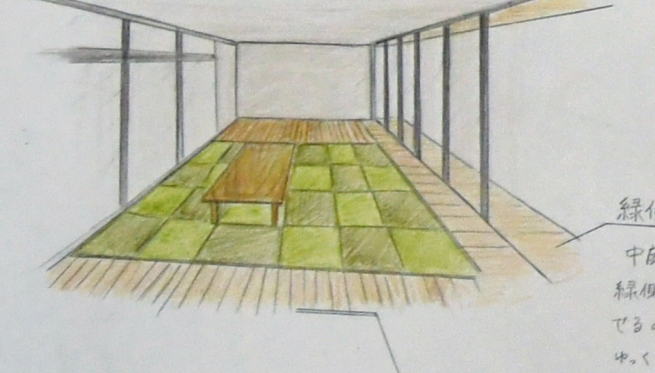
大人は集まって話をする。子どもは外で遊ぶ。幅広い年代の人々が集まることで、普段はくれないつながりが生まれます。

走り回って遊ぶ広い中庭の作りを固く守る。建物が建てられている。



9日
円形の左側の面側が開いているので、夕方になると太陽の光が差込んできて陰になります。

1階建ての隙
和
畳とフローリングが交互に並んでいるため、直接座して椅子に座ってくつろいでいる。ガラス張りなので外の様子がよく見える。

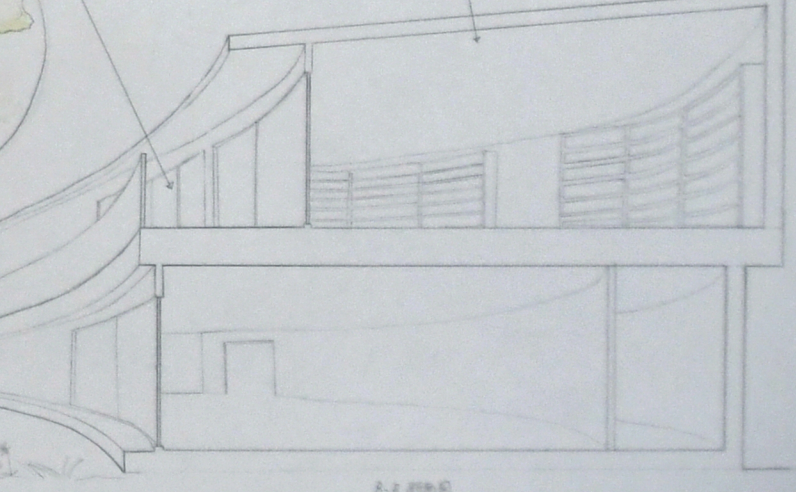


中庭
面積が約50㎡の広い園には、いろいろな交流の場として様々なことを行っている。



2階建ての隙の部屋はほとんど南向きにあるので、日光が入って明るく。

2階
2階の部屋の一面が半開放になっている。中庭側の面は外の通路とつながっている。
遊ぶ
作品を飾って展示する。
使われてきた板や石を集めて図書館にする。



1. コミュニティ

コミュニティの一員として人々との関係を広げていくことで、良い面も多くありますが、窮屈さがあり不自由さを感じたりするという側面もあります。下の絵は、コミュニティで生まれる人々との接触やサービスに対する「ネガ」と「ポジティブ」の2つの反応を表したものです。このように、YesとNoの人々がいることを理解しなければなりません。この本には「この方は葛藤を経由し集合生活知は成熟していく」と書かれています。人々を「むすぶ」ためにはコミュニティの場をつくるだけでなく、そこから人々がどう使うかによって生か

される場をつくることか「大切だ」と感じました。

1-1 健康告知
ランニングゾーンにランナーの密度が高まっています。今走ればコミュニティメンバーに会うチャンスがあります。
NO: 行きたくなくていいから、別に。
YES: 行こうかな。田中さんもきてるかも。

2-健康告知
あなたの悪玉コレステロール値が140mg/dlを超えました。食へすぎや運動不足に注意してください。
NO: そんなこと知りたくもないよー。
YES: 油っこいものはひかえておこう。

3-健康告知
先月までのあなたの家の電気使用量は380kWhです。コミュニティ全体(350世帯)の平均値より+15%です。
NO: うちがそんなに電気を使ってるわけじゃないよ。
YES: 何でしたら? 節電しなくちゃ。

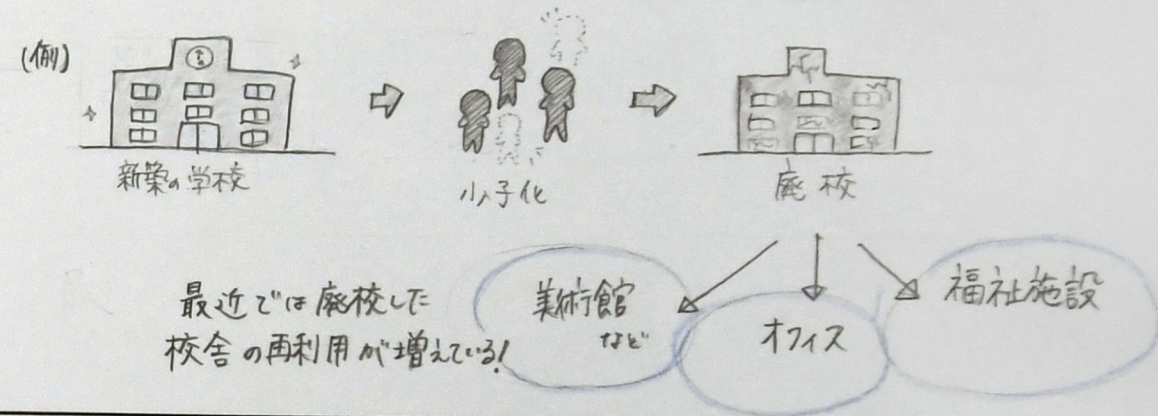
4-健康告知
田中一郎さんの活動レベルが低下しています。様子をうかがってください。
NO: うちの田中さんってなんのこと。
YES: 病りに寄っていきうか。心配だよ。

5-健康告知
けやき広場の前の桜が咲き始めました。是非ご覧ください。
NO: 桜なんて見たくないから。
YES: お花見の準備しなきゃ。

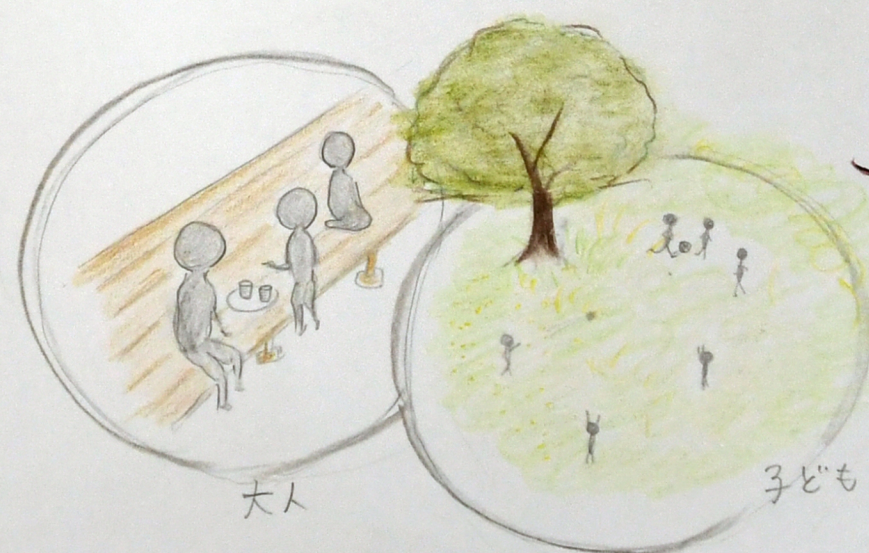
6-安全告知
不審者がコミュニティ内に侵入しています。B街区2階付近にいます。
NO: 不審者がいるってどうするのよ。
YES: 気を付けよう。田中さん大丈夫かな? 見に行こう。

2. 長く使われる

インターネットの普及や少子高齢化、その他の理由などにより人々の生活スタイルは変化してきています。生活スタイルが変化していく中で、建造物の需要がはたかたしていきものもあると思います。当時必要があって建てたものでも今は使われはかたかたして閑散としてしまつた、というふうなことがいろいろに、長く使われることを考える必要があると思います。



2階と1階の部屋に目的をもたせはいつにして、「何もしないで」何かできる部屋にすることで「それぞれの時代のニーズ」に合わせて利用できる。



3. 幅広い人達が利用する

大人は集まって会話をすることを楽しむ人が多く、子どもは外で遊ぶことが必要だと思います。幅広い年代の人々が集まることで、普段はつくれないつながりが生まれます。

走りまわって遊ぶ広い中庭の周りを囲むように建物が建てられている。

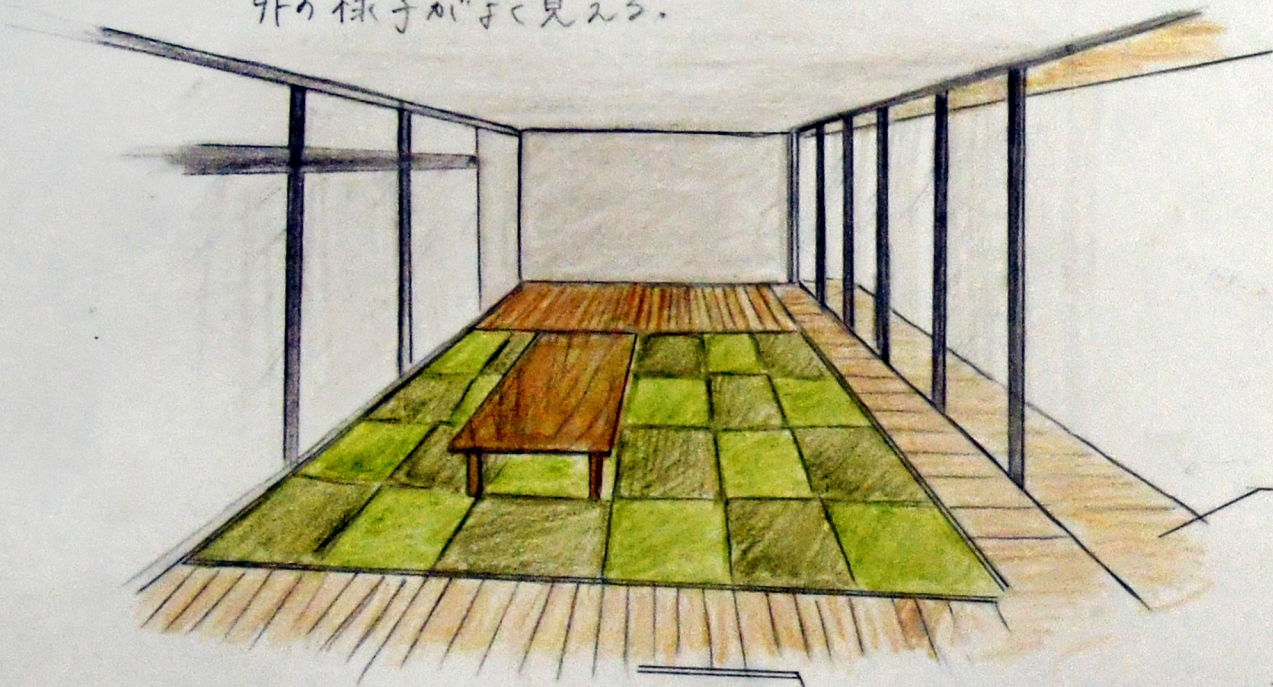
夕日

円形の広場の面側が開いて
いるので、夕方になっても太陽の光
が差し込んできて陰にはならない。

1階建ての陳

和

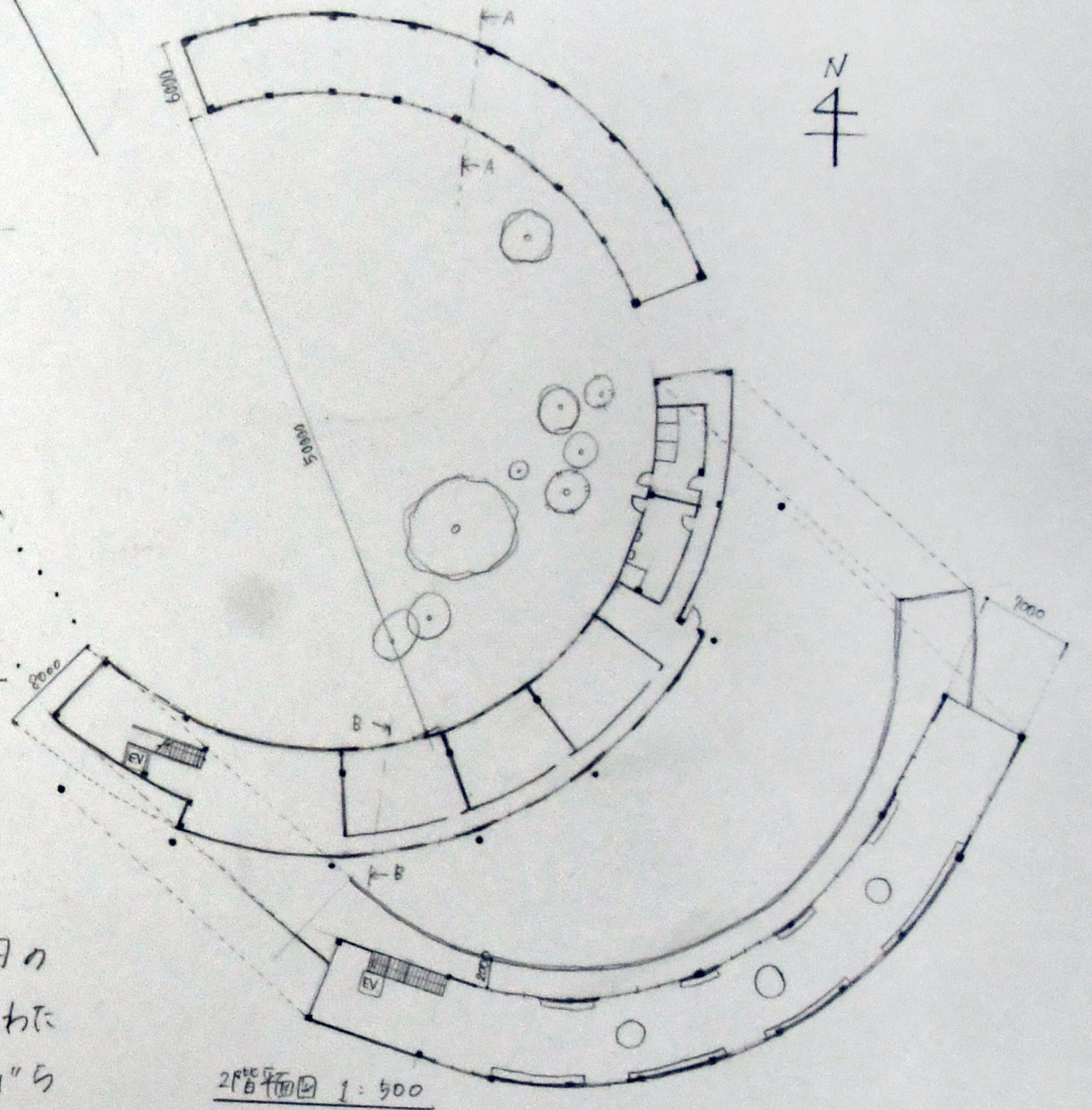
畳とフローリングが交互になっているため、直接座ったり
椅子に座ってくつろいだりできる。ガラス張りなので
外の様子がよく見える。



緑側

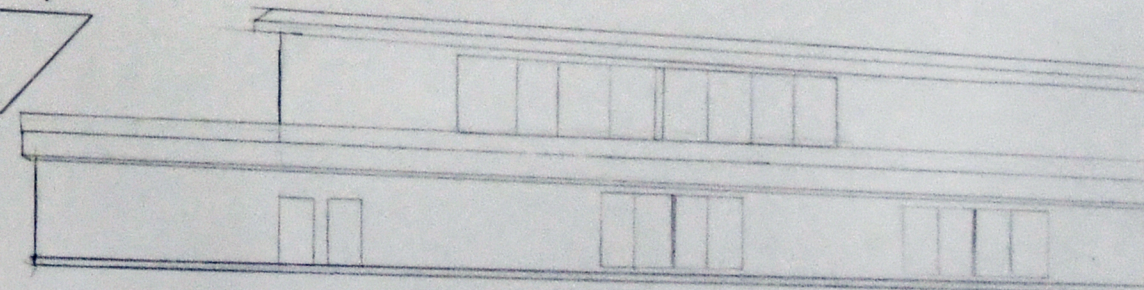
中庭を囲むようにして半円の
緑側がある。中庭が見わた
せるので子供を見守りながら
ゆっくりできる。

1階平面図 1:500

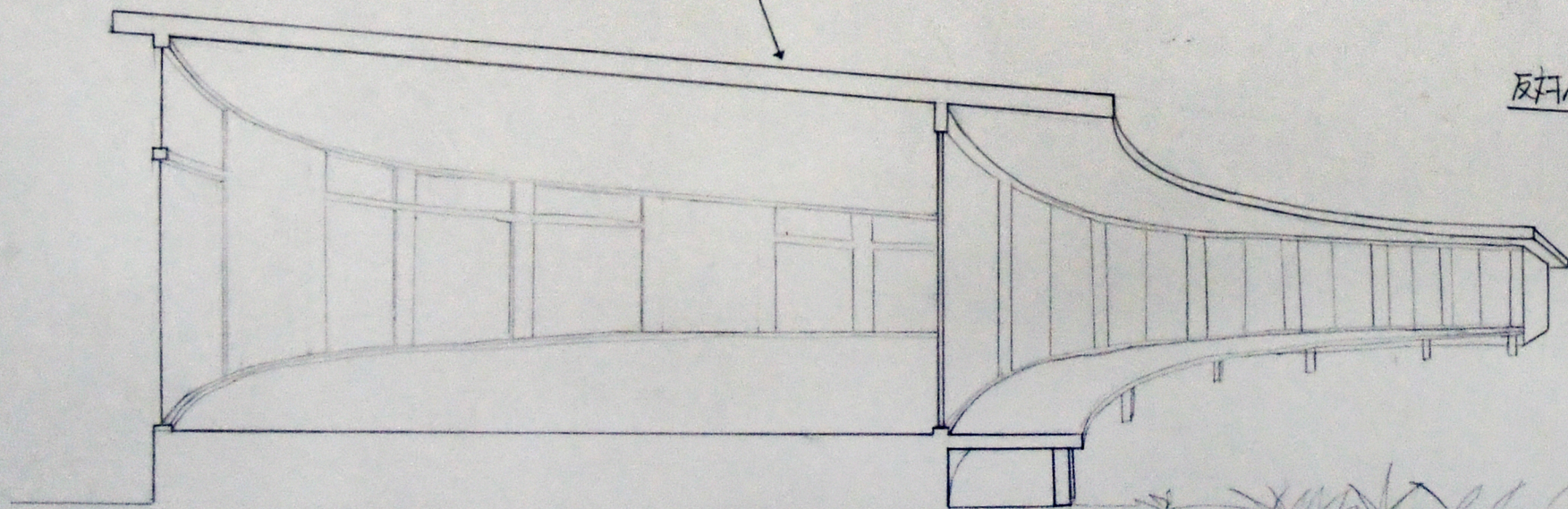


2階平面図 1:500

反対側の出入り口

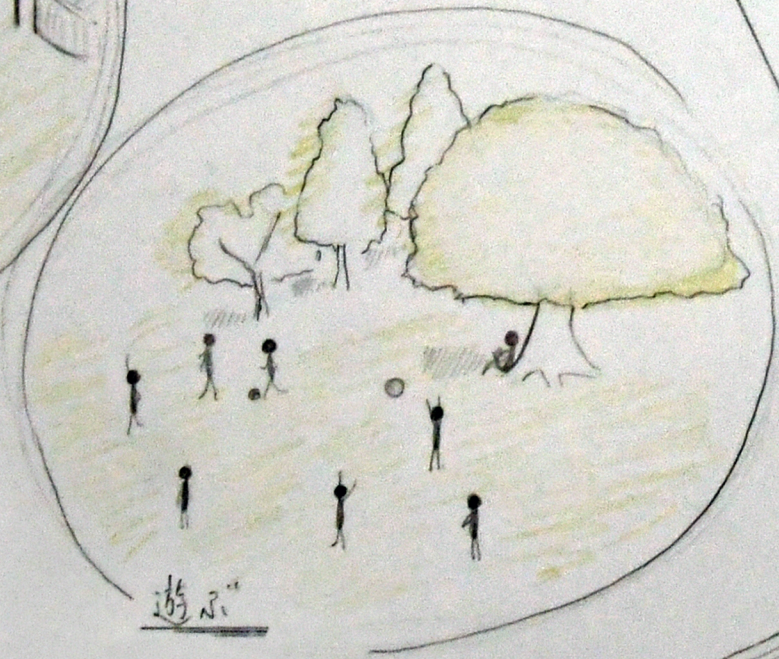
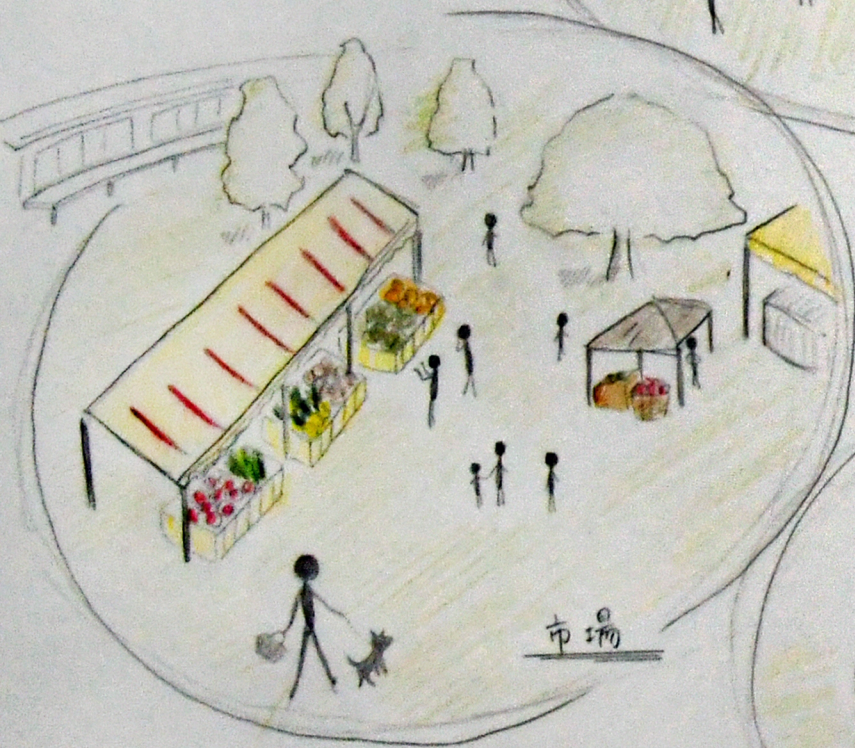
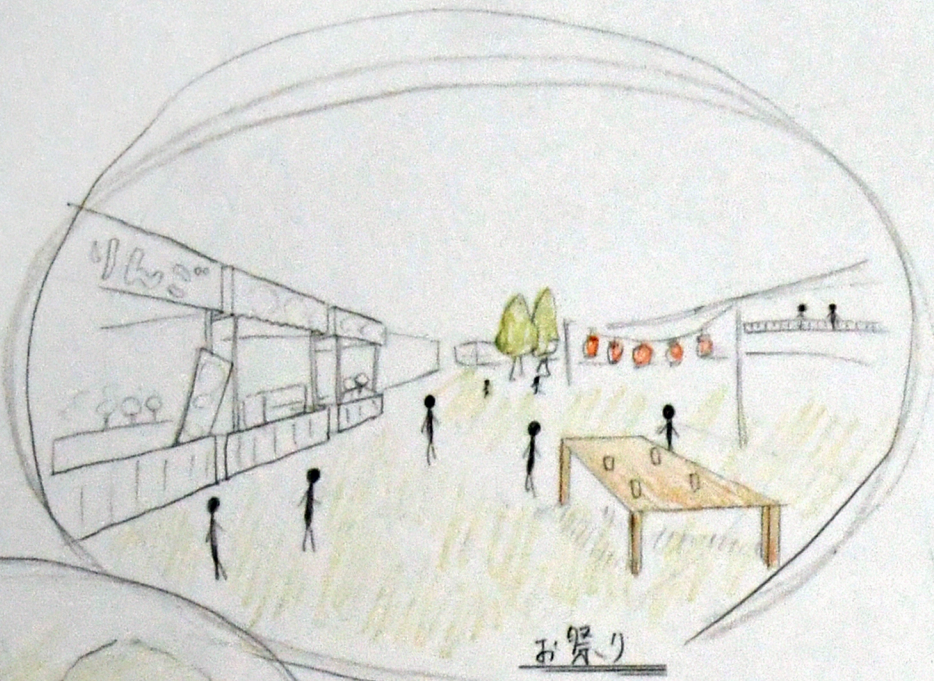


A-A 断面図

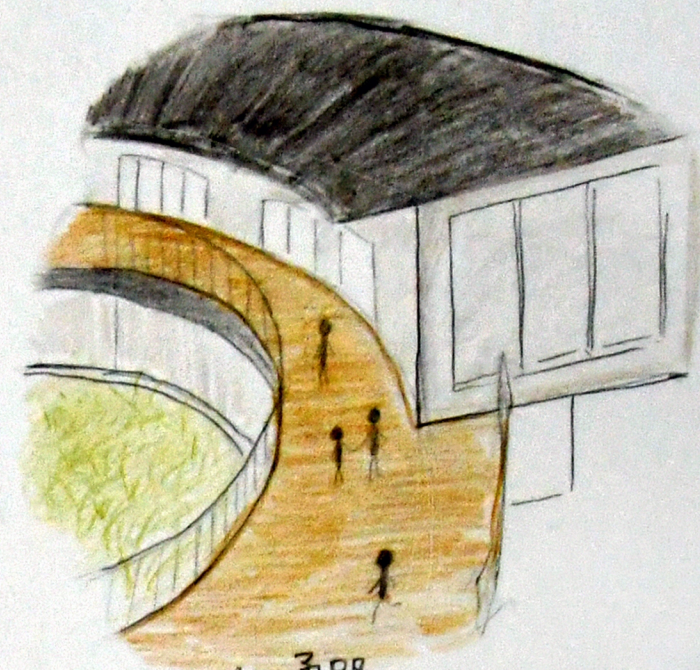


中庭

直径が約50mの広い
庭園には、交流
の場として様々なことに利
用できる。



2階建ての陳の部屋はほとんど
が南側にあるので、日光が入
ってきて明るい。



中庭のまわりを約180°囲まよ
うにテラスがある。どの面からでも
外の通路に出られるので自然をよ
り感じられる。

2階

2階の部屋の一面が本棚にほて
いる。中庭側の面は外の通路とつな
がっている。

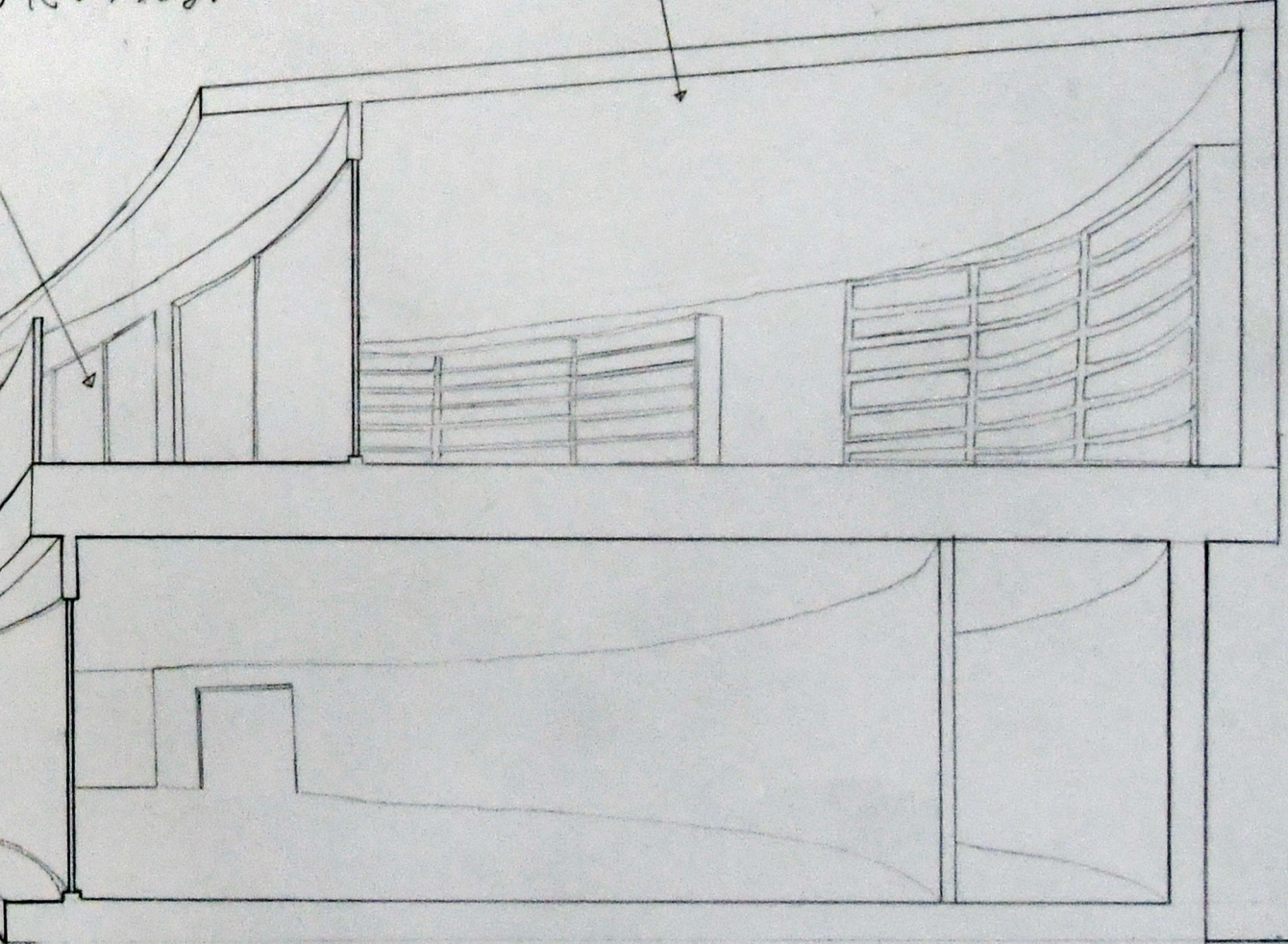
部屋の使い道

遊ぶ

作品を飾って
展示する。

使わなくなった
絵本などを集めて
図書館にする

など...



B-B 断面図

自然都市柳ヶ瀬

～新たな結び～

近年、地域コミュニティの場としての商店街は少子高齢化や情報化社会の進行、流行の移り変わりなどの理由により、衰退の一途を辿っている。私たちの身近にある柳ヶ瀬商店街はかつて道を埋め尽くすほどの人でにぎわっていたが、今ではシャッター街となり廃れた印象がもたれる。馴染みのある地域に活気を取り戻すため、かつての繁華の象徴である柳ヶ瀬に様々な関係を超える建築を提案する。

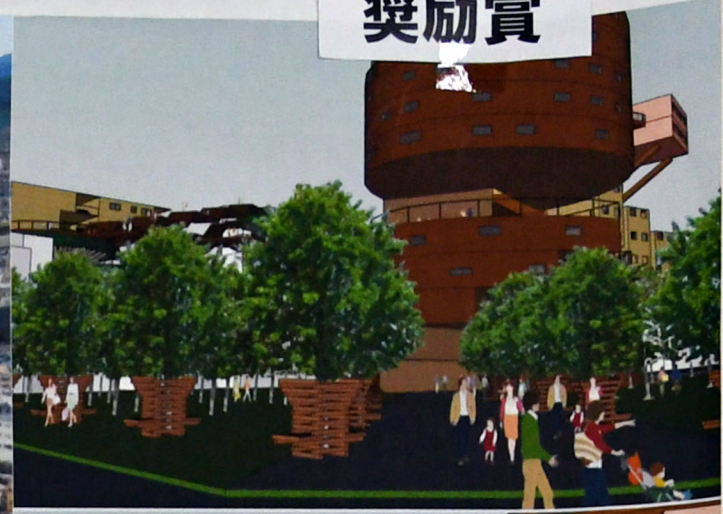
「都市は森に還るべきである」

森では普通周りを抱かない鳥や猿などが自然を介して有機的に結ばれ、自然の中を走り回って集いを作っている。

近代化が進み様々な「結び」の消失で衰退した都市に森に存在する結びを取り込むことで新たな集いが出現し、人や建物が共存し結びを作る。これが都市の活性化に繋がる。



使用画像：Google Earth



<柳ヶ瀬の現状>

柳ヶ瀬を訪れる人の数は年々減少している。今回の提案で柳ヶ瀬の活性化を狙い、再び人で賑わう柳ヶ瀬を作り上げる。

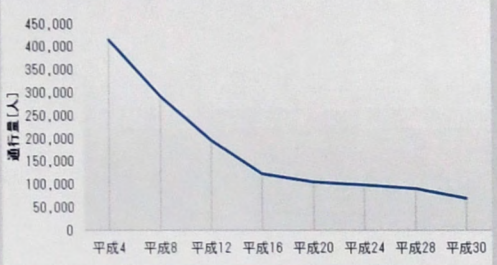
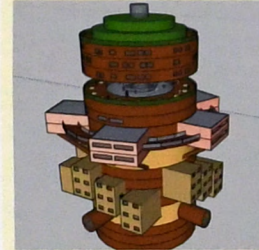
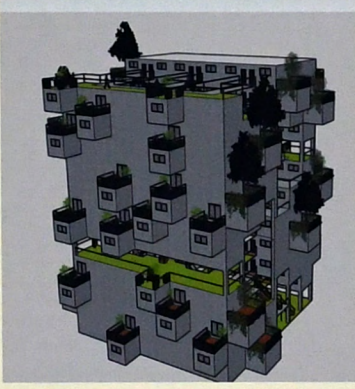
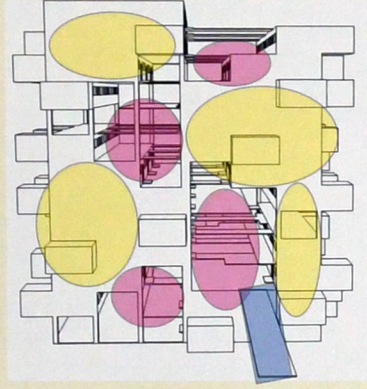


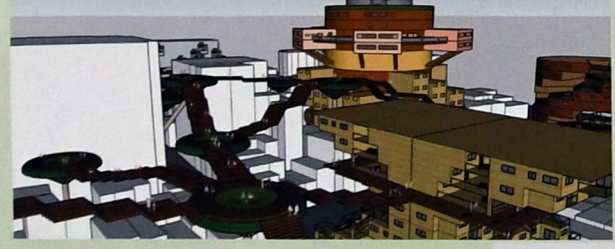
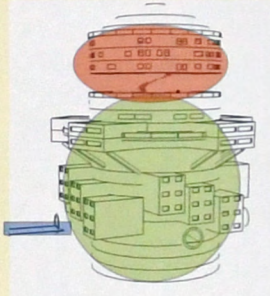
図1 柳ヶ瀬の総通行量の推移

引用：岐阜市歩行者・自転車通行量調査
URL: http://www.city.gifu.lg.jp/secure/11996/H28.hokosyatayosa_s.pdf

様々な方向からの視線、人の流れが生まれる建築。それにより、連鎖的な視線・人間関係が生まれる。これは建築空間に活気を与え、明るい雰囲気をつくり出す火種となる。また、自然を取り入れることによってより明るい空間・視線へと繋がる。

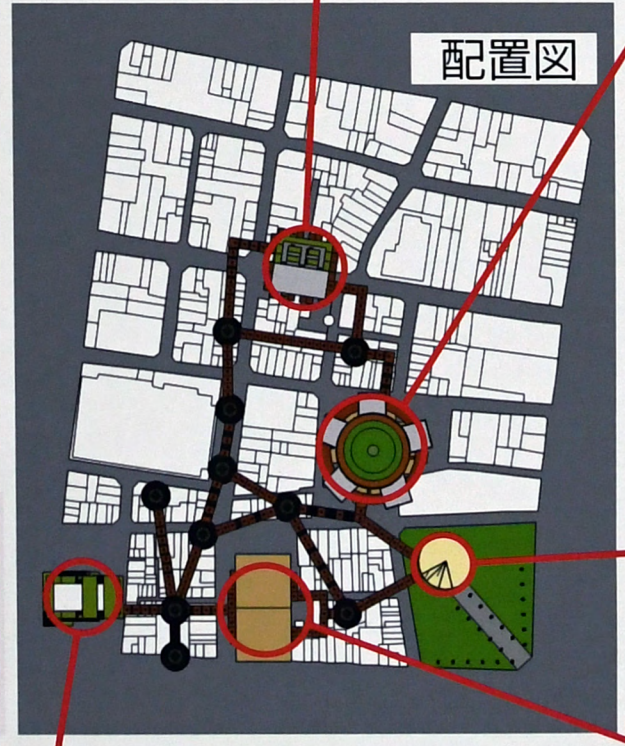


円柱の建物を木の幹に見立てた建築物。その周囲には不規則に突き出る空間があり、ツリーハウスのような風景が思い浮かぶ非日常的な感覚が味わえる。不規則に飛び出た空間から様々な方向に繋がる通路がのびており、上下左右問わず多くの人の関係を結んでいる。上階には半屋内の展望エリアがあり、木登りをして景色を眺めるといった懐かしい感覚も感じられる。

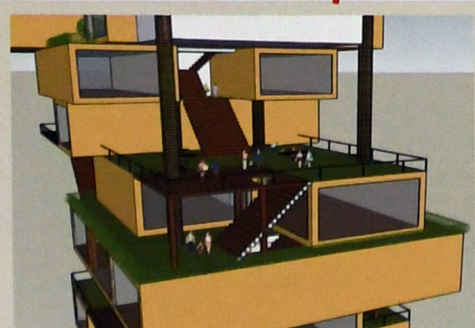
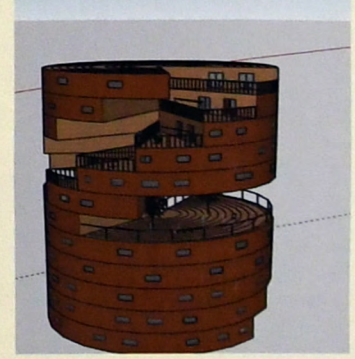
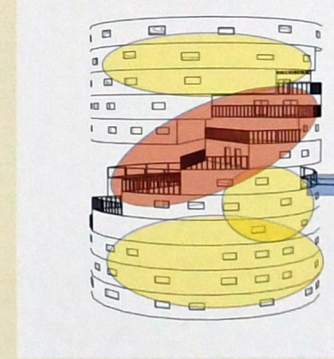


空中廊下を用いて設計した5つの建築物を結ぶ。直線的に建築を結ぶことは互いの役割の違いにより悪影響を及ぼすことが考えられたため、建築と建築を結んだ空中廊下の間に広場を設け、それぞれの建物の緩衝剤の役割を担うとともに、誰でも気軽に利用できる空間を設計した。複雑な空中廊下は人の動きの複雑化を図っている。これにより単調な動線では出会うことのなかった人の結びを実現させた。

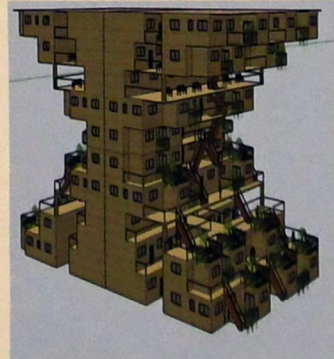
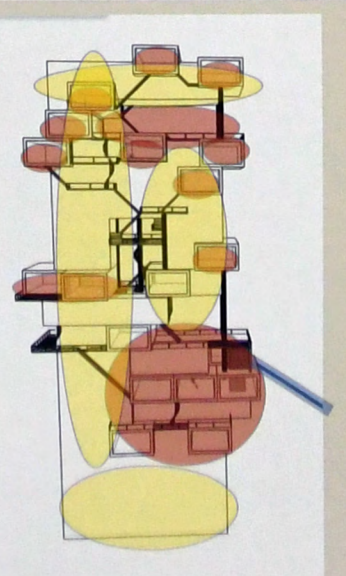
- …通路
- …共有空間
- …商業施設
- …住居



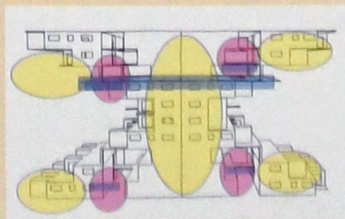
自然の切り株をイメージした集合住宅。中が一部くり抜かれており、螺旋のような連鎖的なつながりがそこにはある。生活の向きが各部屋によって異なり、柳ヶ瀬の街並の見え方が住居によって変わる。未来的なつくりの住居だが外観は自然を強く彷彿させる。



マンションは従来個人のスペースが多く、人の関わりは少ない。そのため多数の人が行き来する動線を兼ねた共用部を設けることで人の関わりが増え、人と人の結びへと繋がる。この建築物では、敢えて上下階・同一階の統一感を無くす事で動きのレパートリーを増やし、人同士の結びを築きやすくしている。

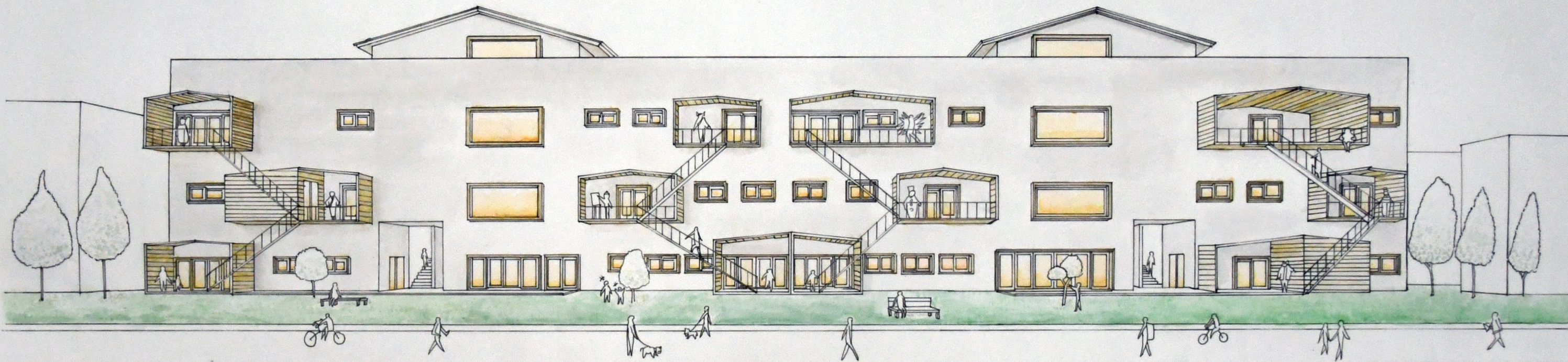


様々な自然のシステムを取り込んだ自然と直結する建築物。世界樹のような象徴となりうる見た目に木の根のように不規則に並んだ階段、様々な方向から介入する木の枝をイメージさせる通路など、多くの自然要素を含んでいる。これらが結びを実現する火種となり、住民同士の、そして都市との豊かな関係が生まれる。

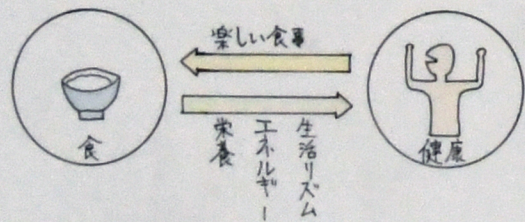


多文化をむすぶ食ダンチ

食は、人が生きるために必要不可欠なもの。
現代日本で、共食は衰退している。
孤食・貧食・欠食、これは、共食共同体であった家族や地域のコミュニティが、「無縁社会」化し、食を通じた人間のつながりが崩壊しつつあることを示している。
静岡県浜松市は人口80万を超える郡市で、外国人の「集居地」として知られる。市内で暮らす住民の出身国は90近くにのぼり、多種多様な文化をもっている。その多くは、県営住宅や市営住宅などの公営住宅の団地に住むが、地域社会での摩擦や課題が顕在化している。
空き家の多い団地に食を通じ、多様な文化が共生していくためのむすぶ建築を描く。

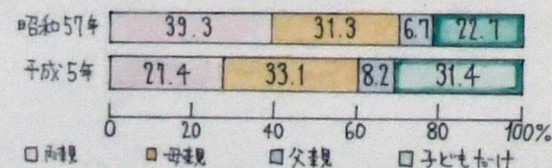


01 社会背景：外国人と食でつながる 食の重要性



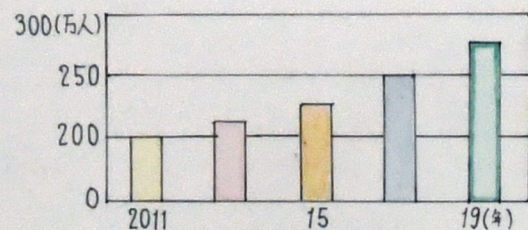
食生活は生命を維持し、人々が健康で幸福な生活を送るために、欠くことのできない営みである。

食事を誰と食べているか 出典：文科科学省



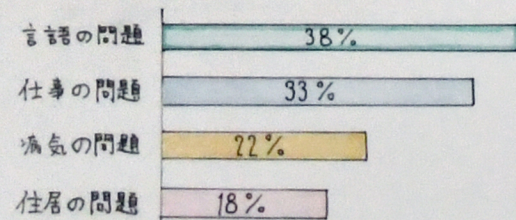
子どもの孤食は、近年問題視されている課題である。女性の社会進出をきっかけに、両親が共働きでいる家庭が増えている。しかし、それにより食事を1人で食べなければいけない子どもたちが増えている。さらに、孤食は子どもたちに様々な悪影響を与えている。

全国の外国人増加量 出典：日本経済新聞



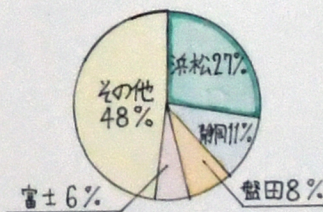
外国人の人口は毎年増え続け、2012年の約200万人から2019年の6月末には282万人にまで増加している。

在日外国人が困ること 出典：国土交通省



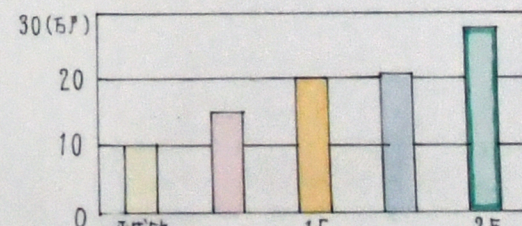
在日外国人が困ることでも最初に挙げられるのは、言語の問題である。在日外国人の38%が日本語がよくわからない、言葉がわからないと答えている。

02 敷地説明：外国人が集まる団地 静岡県の外国人人口



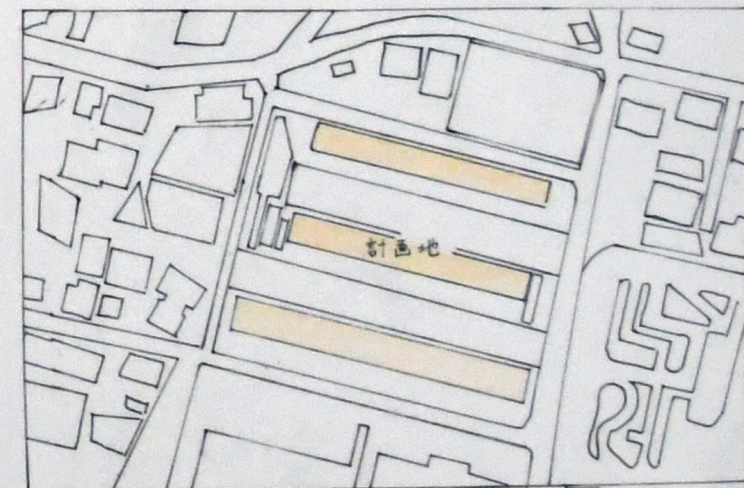
浜松市は静岡県の中で一番外国人人口が多く、静岡県に住む外国人のうち約27% (24336人) が浜松市に住んでいる。

浜松市の空き家の増加量 出典：静岡県公式ホームページ



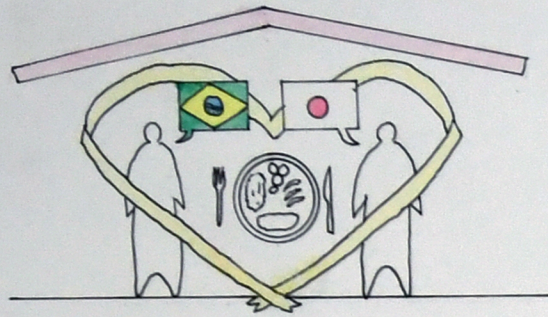
近年、全国的に空き家の増加が問題になっている。浜松市も例外ではなく、平成5年から25年にかけて、空き家の数は2倍以上に増えている。

浜松市中区にある市営団地



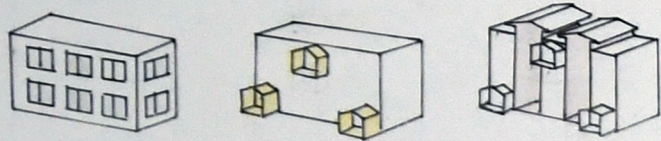
浜松市は工業地帯であり、ものづくり企業の工場が数多くあり、外国人労働者が多い。さらに中区には浜松駅があり、その周辺には飲食店やショッピングモールなどの施設が数多く存在する。そのため、国籍を問わず、様々なライフスタイルを持つ人が集まっている。また、浜松市内には空き家が多く、市営住宅団地にも空き家が多い。

03 提案：食を通じた多文化共生を育む建築



生活に不可欠な食を通じたことで、多文化を育む。

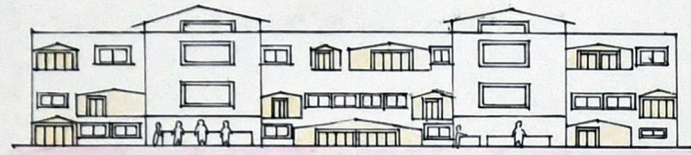
04 団地をむすぶ建築へ



様々な国籍の人が住む
地味にある中宮の空き
団地。

食堂を持ち、家主の文化
を反映した小家を挿入
する。

戸数を減らし、空いた
スペースに思い入れのある
共有空間を設ける。

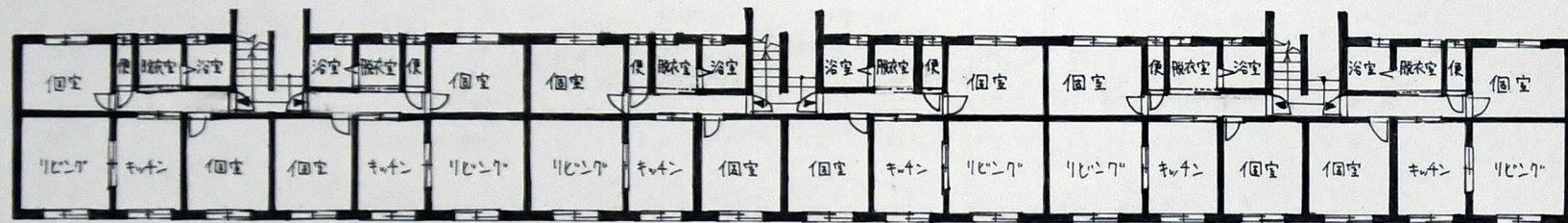


既存立面図 Scale 1:500

上下階のつながりがなく、共有空間がない。そのため、人々との間
わりが生まれにくい。

立面図 Scale 1:500

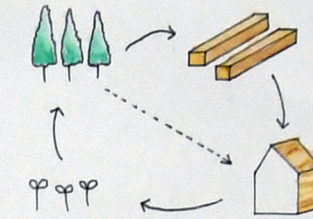
共有空間を吹き抜けにすることにより、開放的な空間にしている。これ
により、コミュニケーションが円滑になる。



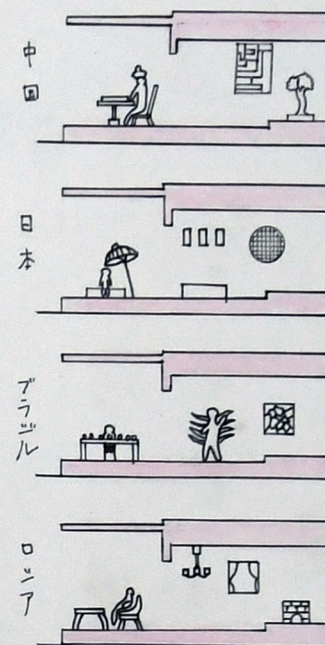
既存1階平面図 Scale 1:200

05 小屋の活用

森を育てる小屋



小屋は地元で育った木が保われ、
木を使用することで、食を生かす
を育てる。



ダイニング×各国の装食

小屋内には各国の特徴的な装飾が
あり、家主の文化を反映した食を提
供する。

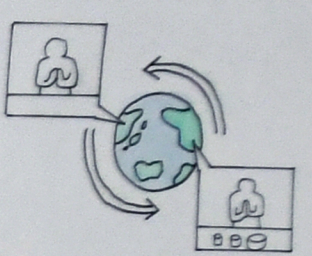
06 共有空間の活用

①子ども食堂



地域の子供を集めて、様々な食文
化を提供する。

②共食ネットワーク



海外に住む様々な外国人と食文
化を共有する。

③和食文化



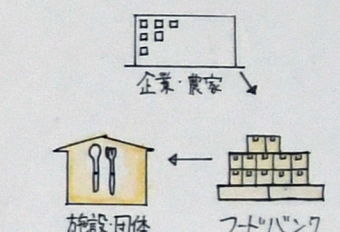
地域の人が様々な和食を外国
人に提供する。

④シェアフェード・食コミュニティ



若者を中心に各国の食文化を提
供する。

⑤フードバンク

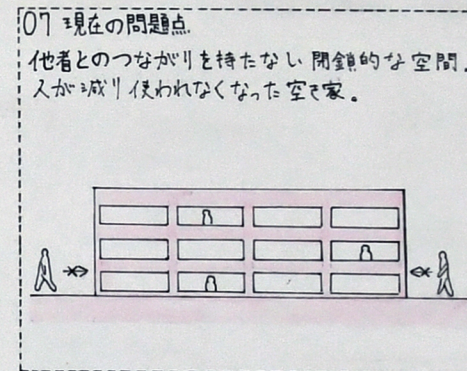


業者が寄付した余った食品を福祉
施設などに届ける仕組み。

⑥イフターールの共食活動

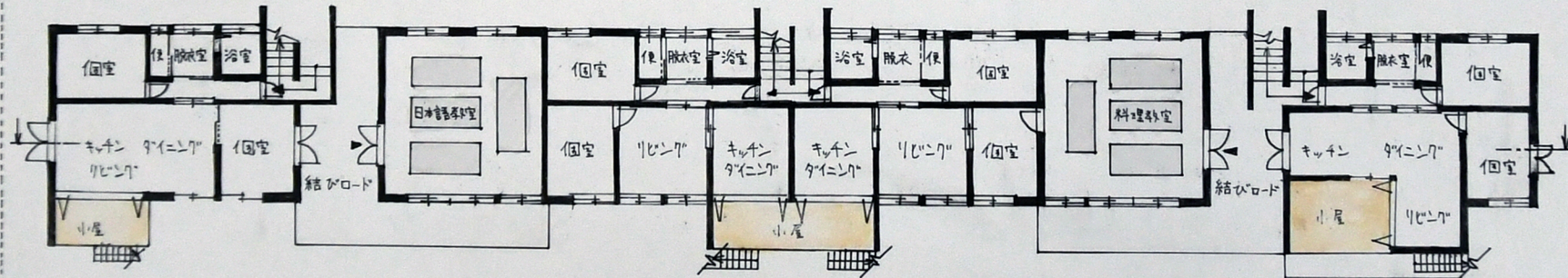
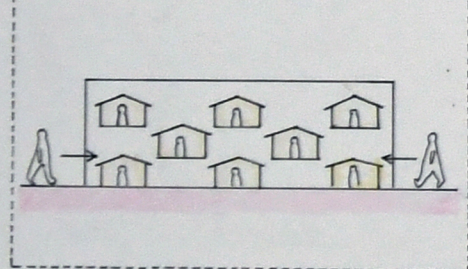


断食活動のツールを併用した後、
大勢でイフターールを楽しむ。



08 平面的な改良点

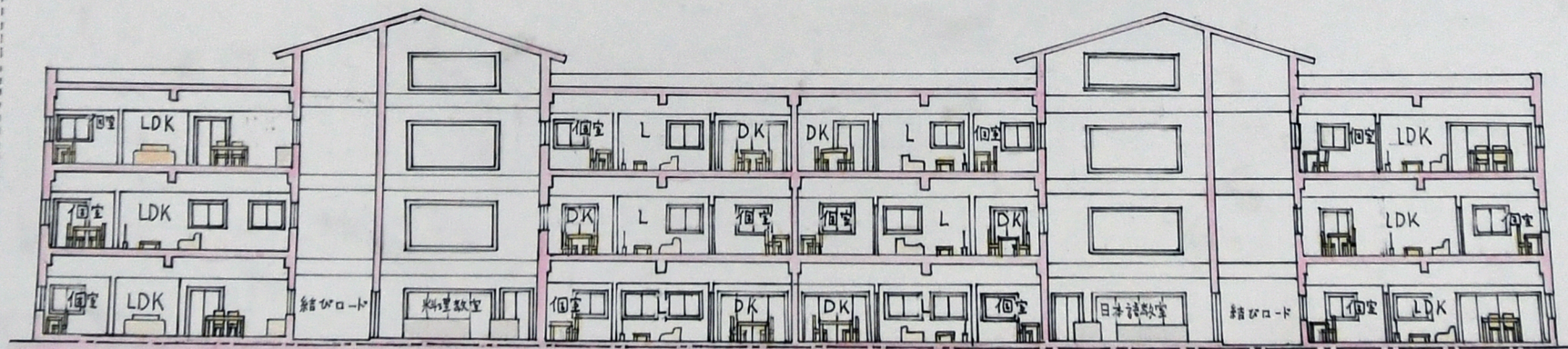
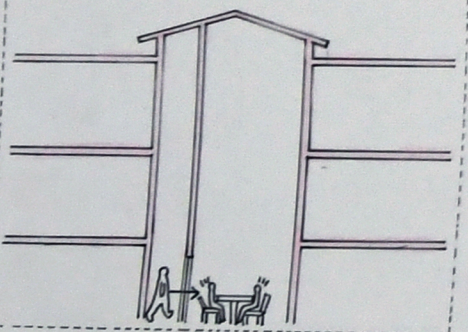
人を寄せつけたい扉を見れば、食を提供する
小屋をつけ、人を寄つてもらうために。



1階平面図 Scale 1:200

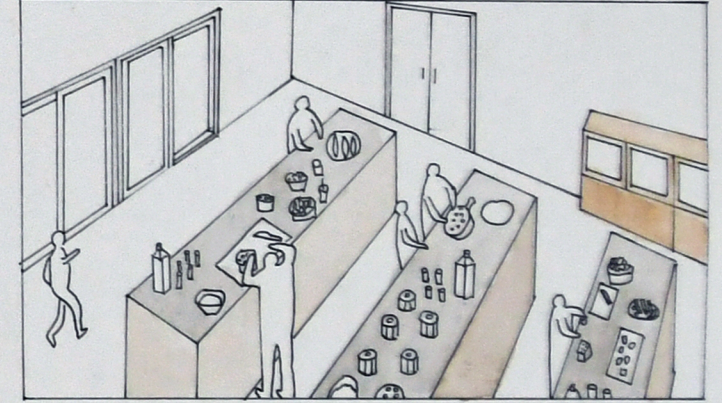
09 断面的な改良点

吹き抜けとなっている共有空間は、料理教室や、日
本語教室として使われ、多くの人が利用するた
め、人々との交流が生まれる。

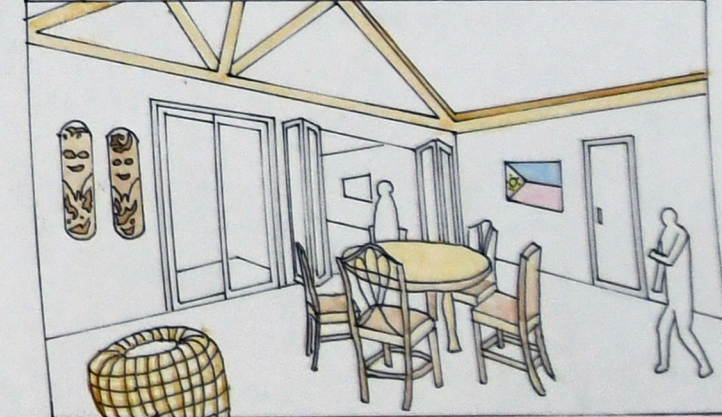


断面図 Scale 1:200

吹き抜けた空間に料理教室をする様子。



その国の特徴を表す小屋。



EQUALITY PARK 4

奨励賞

地球を眺むには、
手帳を横切ることで出来る保体施設
地球の形の教室はこれ
ある。

ボール 平面

テイクアウト専門店。通る前に美味い
お弁当は必ずお持ち帰りして商品も受けに
るだけでメニュー内で飲食可能。

イート
スペース

目でも楽しめるのに3Dモニターで観覧し、
中で使う食料は横の棚かお弁当の取っ手
写真としてSNSにあげたりするだけで楽し
みも広がる。

映画

目で感じる天幕のハフク
これに野菜は横のイートスペースで使用する

ハフク

6 4 2
7 3 1
9 8 5

手帳を横切ることで出来る保体施設
地球の形の教室はこれ
ある。

ボール 平面

白粉屋敷が
カラカラ教室に
次ぎ施設。

グランド

保育園や小学校の運動会はいつも行えるグラウンド。早朝には高齢
者の方やカラオケゴルフに使ったりタームはロウアーに使用される。
誰でも利用できるグラウンド。

高年齢の方でも同じ
世界に活躍し
ていくには
120の部屋に
120の部屋に
120の部屋に
120の部屋に

ドッグラン

コウエン

オブジェ

パーク内で様々な写真とついでに
たり、加工して作られるアートオブジェ。
うしろに穿いた人形と着いた人形、おど
ろしい加工で一生懸命に作る写真アート
作る。記念日や誕生日に!!

1 + 7 = 17

数字アートジェの横で
誕生日記念日に
撮影するに思い出
に残る写真に!!
パーク内のアートオブジェ
で持ちこた加工して
おどろしい写真に!!

数字アートジェの横で
誕生日記念日に
撮影するに思い出
に残る写真に!!
パーク内のアートオブジェ
で持ちこた加工して
おどろしい写真に!!

数字アートジェの横で
誕生日記念日に
撮影するに思い出
に残る写真に!!
パーク内のアートオブジェ
で持ちこた加工して
おどろしい写真に!!

数字アートジェの横で
誕生日記念日に
撮影するに思い出
に残る写真に!!
パーク内のアートオブジェ
で持ちこた加工して
おどろしい写真に!!